

京都大学工学部 学生会員 ○萩下 敬雄
 京都大学工学研究科 正会員 山田 圭二郎
 京都大学工学研究科 正会員 中村 良夫

1. はじめに

景観デザインには、実際に景観をデザインするという側面と、景観意識を分析し風景を解釈するという側面がある。この二つの側面はそれぞれ独立したものではなく、相補的であるべきものだと考えられる。

これまでの研究では、リンチに代表されるように、多くの人に共通しパブリックな景観意識を抽出することに重きが置かれていたように思われる。本研究は人間の景観認識を忠実に記述する新たな手法の提案を目指し、その手がかりとして微地形敷地を上手く利用した清水寺を対象に景観意識の連関構造を抽出することを目的とする。

2. 本研究の位置付け

景観意識を抽出し表現する際、これまでの研究における表現方法では人間の意識により生成され連関される要素間の関係が十分表現されていない。本研究では、自由連想法によるアンケートと地誌メディアの分析を通して、人々の景観意識の連関構造を抽出した。

3. 自由連想法による連関構造抽出

京都大学の学生4名にアンケートに協力していただいた。アンケートの手順を以下に示す。

- ①清水寺に行って被験者に写真をとってもらおう。とった位置と方向は地図上に記入してもらおう。また、ズームを使った場合は場所と方向を固定してズームを戻してもう一枚写真をとってもらおう。
- ②現像された写真を被験者に見せ、それについて記述してもらおう。

次に言語が空間認識を支配する、との前提をもとに、連関構造を抽出する。その手順を以下に示す。

- ①被験者の記述を元にして、言語が空間認識を支配するものとして写真を分割する。
- ②被験者の記述を元にして、異なる写真間又は一枚の写真の中での連関構造を調べる。
- ③連関構造を分類、整理する。

連関構造として【図-1】に示す9つのタイプの連関構造が抽出された。

4. 地誌メディアによる連関構造抽出

3節で抽出された引用型、連想型の連関構造について考察を進めるため、ガイドブックを用いる。以下に連関を抽出するための手順を示す。

- ① 4冊のガイドブックを用い、文章の意味が一塊であると

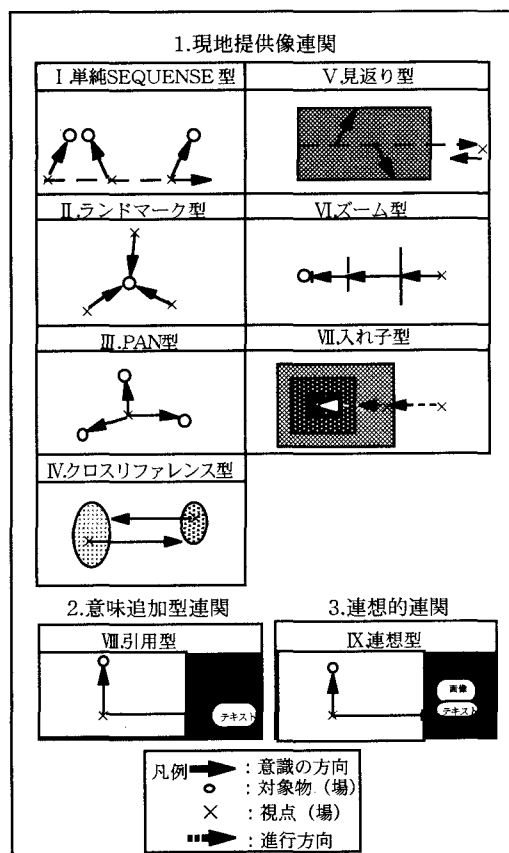


図-1 意識連関のモデル

考えられる部分に文章を分割する。

② 何回も引用されている一つのキーワードについてそれを含む意味内容の塊を全て抜き出す。言語の最小単位である単語のレベルまで文章を分解して連関構造を調べる。

③ ②で抜き出されたそれぞれの意味内容の塊内で要素は連関されると考え、空間構成要素をリンクを用いて構造化する。

④ ②のキーワードから連関されたものについて同じように②～④の作業を繰り返す。

キーワードを舞台とした連関関係、舞台と連関する三重塔の連関構造を示す。【図-2】

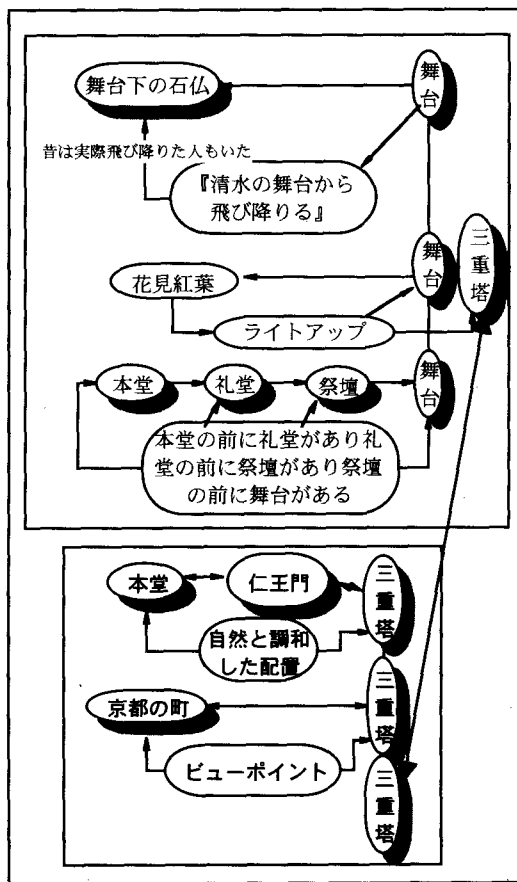


図-2 地誌メディアで抽出された連関モデル

5. ハイパーテキストの可能性

(1) ハイパーテキストの簡単な定義

「全体のテキストが部分的なテキストの塊（チャンクあるいはノード）としてまとめられており、それぞれの塊間の結合関係が定義されている。そして、それらのリンクをたどるためのメカニズムが提供されている。このような形態で与えられた非線形構造のデータの枠組みを『ハイパーテキスト』という。」

(2) 連関構造のモデル化

3、4 章により得られた意識の連関構造をモデル化した結果を示す。【図-3】【図-4】

これらはハイパーテキストを用いてモデル化できると考えられる。

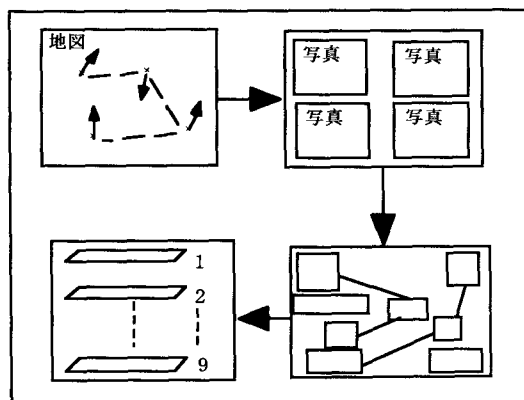


図-3 アンケートで得られた連関構造のモデル化

6. 結論

自由連想法では大きく分けて3種類の連関構造（現地提供像連関、意味追加型連関、連関的連関）が抽出された。1つ目は現地提供像連関であり、その結果をもとにして①の結論が導かれる。また、その他二つの、意味追加型連関、連関的連関とそれらについて地誌メディアを用いて、得られた意識連関の結果をもとにして②の結論が導かれる。連関構造をモデル化することについての考察より③の結論が導かれる。

①我々は、視点を変化させ、意識の中で多数の像を連関させ、

景観体験を豊かにしている。

②我々は既存の知識を元に空間構成要素間の連関を知り、景観体験を豊かにしている。

③景観認識における意識の連関はハイパーテキストを用いてモデル化することが適当である。

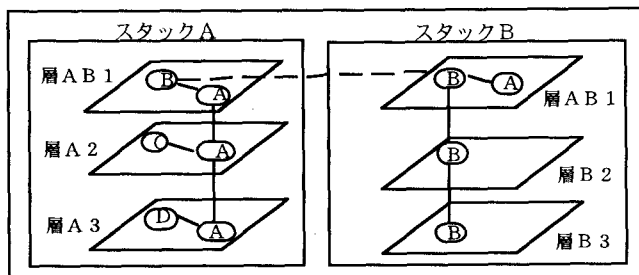


図-4 地誌メディアの連関構造のモデル化